

沖縄における米軍ヘリ墜落事故 第2回事故分科委員会報告に対するコメント

今回、このような形で事故原因の説明をしているが直接被害者への説明がないことは不満であり詳細な説明を要求していたところである。
しかし、このブリーフィングの結果については、我々は以下の通りに考える。

1. 直接被害者への説明がない。
2. 事故後1ヶ月半にもなるのにこんな説明しかない事に怒りを覚える。容認できない。飛行コースなど未だに明確にされていない部分もある。
3. 日本側の対応にも怒りを感じる（子供だましを了解）
4. 事故機固有ではないベトナム戦争時の欠陥機
5. 一人整備要員の責任にする事は卑怯→とかけのしっぽ切り
欠陥機を配備飛行させている事自体が問題である→軍紀が乱れている事を実証している（自ら認めている）
6. 下部を厳しく律するより、上官、政府自らが責任を示すべき
7. 嘉手納のF15機空中衝突もあり、県民の怒りは頂点に
8. もっと重大事故が起こらないと事態の展開はないのか。
9. 被害者としては、パイロットがどのような操作を行ったか—どのように効果的緊急手続きを実行したのか—を示さないと心が癒されない。
10. 今後もいつ落ちるか分からない航空機が上空を飛ぶ事は受忍の限度を超える。
また、たとえ同型機以外についても我々は同様の事故の不安を抱いている。
本学の願いは事故原因が究明されてもすべての軍用機の恒久的飛行停止である。

2004. 10.5

沖縄国際大学

米軍ヘリ墜落事件対策本部